

平成 30 年度経営評価委員による年度末評価での意見・要望等	平成 31 年度以降に向けた取組み等
<p>1 経営全般、研修事業について</p> <p>◇ 今年度も今般の教育課題を的確に捉え、教育現場のニーズへの対応としての研究、研修、相談・支援の各事業がバランスよく展開されていると思う。特に研修講座全体の 99.8%が、「大変よい」＋「よい」の高い評価となっており、昨年度からも上昇している。すでに研修の満足度（入力指標）についてというよりは、むしろ楽しい課題であるが、指標として実践の変化や児童生徒への影響などの出力指標との関連を考慮すべき段階ではないか。</p> <p>■ 年度初めの講座参加の申込については、申込締切日まで期間が短いことや様々な校務の見通しが立たないことなどで、研修の機会を逃していることが多々ある。</p> <p>締切を過ぎたものについては、「学校旅費対応での参加」を認めてもらえれば、学校でも研修の機会を得ることができ、センターでも充足率を確保できるのではないかと考える。</p> <p>■ 小学校においては、プログラミング教育がスタートするわけだが、それにしても「小学校におけるプログラミング教育実践講座」の受講率が低すぎる。</p> <p>「資料 4：平成 30 年度県教育センター事業の進捗状況」には、「問い合わせが複数あり、電話対応や出前サポートで各学校のニーズに対応している。」と記されているので、各小学校で独自に研修会等を実施しているのであれば良いのだが、個人的に話を伺っている限りでは、十分に対応できる状況には至っていないように思われる。新年度は完全実施 1 年前なので、ぜひ定員を増やして、「研修講座の目玉」としてアピールしていただくようお願いする。</p> <p>■ （引き続き）初任者研修の抜本的な見直し、検討について</p> <p>（1）採用人数の増加に伴う研修体系を引き続き検討していく必要がある。大量退職・採用や産育休者の増加に伴い、講師不足は必須である。平成 31 年度実施の「初任者 2 人に対して 1 人の非常勤講師（小学校）」という研修体系が機能するかが懸念事項である。教職員課とのさらなる連携を基にした体系整備が急務である。退職者も採用者も多い村山地区にとっては大きな課題である。</p>	<p>○ 各基本研修において、「研修キャリアアップシート」を配付し、受講者が「指標」の各項目に掲げられた資質・能力が身に付いているかを自己点検し、主体的・計画的に研修を実施していくことを支援していきます。また、研修の実施主体として、各講座を通して受講者に身に付いた資質・能力の評価と講座内容の改善の在り方について、専門研修も含めて検討していきます。</p> <p>○ 30 年度は、6 月と 8 月に追加募集を行いました。31 年度も、定員に満たない場合は追加募集を行う予定です。学校現場のニーズを探りながら、研修内容の見直しを行いつつ、研修の周知に努めていきます。</p> <p>○ 31 年度も、「小学校におけるプログラミング教育実践講座」を継続実施する予定です。また、出前サポートで各学校の要望に沿った対応も継続します。</p> <p>更に、「小学校プログラミング教育に係る学校ニーズへの対応」の研究を新規に立ち上げ、小学校におけるプログラミング教育必修化に向けた、基礎研究及び研修プログラムの開発を行う予定です。</p> <p>○ 初任者研修については、平成 31 年度から、小学校において A B グループによる実施となります。また、「校内研修を含めた O J T の充実」をコンセプトに、実施内容・方法等の更なる見直しを行います。</p>

<p>■ チーム学校のキーワードのもと、学校事務職員を含めた学校体制づくりが必要。そのためには、学校事務職員の学校経営参画のイメージや役割のイメージが欠かせない。先進県の事例や山形県としてのめざす学校の姿を描きながら、研修内容を定めていく必要がある。すぐに研修に取り組めないとしても、研究部門において、先進事例を集約することは可能ではないか。あるいは、実践を発信している学校事務職員もいることから、研修部門において、講師にすとか、インタビューを行いまとめを発信するなど、できることから取り組むべきと考える。</p> <p>2 研究事業、相談・支援事業について</p> <p>◇ 高等学校においては、平成30年度から探究科と普通科探究コースが設置され、大変多くの受検生が志願した。高い目標に積極的にチャレンジしようという生徒の高い志に応えるために、設置校では中核教員を中心にして研修を行っている。この研修の成果を広く本県の探究型学習の推進につなげていくためにも、教育センターとしての機能を発揮して、成果の普及にあたっていただきたい。</p> <p>◇ 年1回以上実施の文科通知もあり、「SOSの出し方教育」推進講座の新設を要望する。いじめ等、児童生徒の人間関係形成や対教諭との関係形成など生徒指導面で重要だと感じる</p>	<p>○ 学校事務職員の研修について、関係各課と検討していきます。</p> <p>○ 探究型学習の推進に向けて、関係各課と連携しながら。教育センターとして調査・研究を行い、成果の普及に努めていきます。</p> <p>○ SOSの出し方に関する教育を推進していくことは、非常に重要であると認識しています。講座のねらいや方法等について、今後検討していきます。</p>
---	---

※以上のほかにも、経営評価でいただいた御意見（「平成30年度経営評価委員による年度末評価」）を踏まえ、今年度の経営を進めます。